

学校本来の姿を求めて教育の見直しを！

米澤 俊和

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開幕を目前に、今もなお、新型コロナウイルスの猛威は衰えることなく、全ての国民が不安の中で、このパンデミックの終息を待っている状況である。

さて、教育の世界では、確かな学力の定着に加え、いじめ・不登校の問題、特別支援教育の推進等、様々な課題を抱える中、今年1月に出された中央教育審議会答申においては、『GIGAスクール構想の実現』や『令和の日本型学校教育の実現』等、Society5.0時代の到来に向けて、大きくその様相を変えようとしている。

『日本型学校教育』とは何か。答申の中で、「学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む教育」として記されている。確かに、教育基本法で、「教育は、人格の完成を目指し、…」と教育の目標が掲げられている。それが故に、教師は教育に全精力を注いできたのが現実である。

一方、平成31年3月、文部科学大臣は、働き方改革の実現に向けて、我々教職員に対してメッセージを発出した。「子供のため」を合い言葉に、志ある教師の皆様が、その使命感から様々な社会の要請に献身的に応え、これまでの学校教育を支えてきましたが、長時間勤務の中で疲弊し、…」と述べられている。正に、この状況がこれまでの『日本型学校教育』の代償である。もう学校だけで様々な課題に対応するには、限界がきていると感じる。

現在、学校における働き方改革は進められてきているところであるが、『令和の日本型学校教育』を実現していく上で、私たちは「子供のため」を合い言葉に、学校教育、家庭教育、社会教育…、それぞれの立場で本来あるべき姿は何なのか精査するとともに、スクラップ&ビルドの視点から業務内容を見直す必要があるのではないかと。そして、学校本来の姿を取り戻していきたい。

本地区の特色である山と野と渚という豊かな自然に囲まれた教育環境のもと、一隅を照らし、未来の大隅を担う児童生徒の育成を図っていくことこそが、私たちの責務なのだ実感する。

学校を訪問した際、児童生徒の笑顔と笑い声、大きな声で「はい」と挙手する姿、歌声やリコーダーの音色が響く音楽の授業…、そして、生き生きと笑顔で指導する先生方…。実に学校らしさを感じさせてくれるものである。

最重点課題

「確かな学力の定着」

「わかった」「できた」を見届ける!!

キーワード: 「振り返り」と「見届け」

鹿児島学習定着度調査結果の概要

※ 下の表は、太線を県平均とし、それと本地区との差を、棒グラフで表したものです。 R1・・・ R2・・・

	国語	社会	算数	理科	英語
小5	県平均下	県平均下	県平均下	県平均下	県平均下
中1	県平均下	県平均下	県平均下	県平均下	県平均下
中2	県平均下	県平均下	県平均下	県平均下	県平均下

- ◇ 小・中学校全ての教科において、県平均を下回っている。
- ◇ 中学校のいくつかの教科(※)で、県との差が縮まっている。

1 授業改善の推進

- 「大隅学力向上リーフレット」の活用
→ 「振り返り」の時間の確保等
- 「グラフ作成ソフト」の活用
- 「良問(よか問等)」の活用
→ 「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」のバランスを考慮した良問の活用

振り返りで演習問題で **見届け!**

2 「学ぶ姿勢」の育成

- 「学ぶ姿勢(令和3年度版)」の活用

授業を受ける構えを粘り強く考える姿を **見届け!**

3 学力向上に関する校内PDCAサイクルの確立

- 共通実践事項の設定と授業参観及び授業研究の実施 **短・中・長期的に** **見届け!**

「わかったであろう」「できるであろう」と思ったまま、授業を終えていませんか。児童生徒に、学習内容が本当に定着しているのかを、演習問題等を活用して、しっかりと確かめる「見届け」を授業の中で行いましょう。

「振り返り」ができる授業へ! 定着するまで「見届け」を!

「不登校の改善」

コロナ下で不登校の児童生徒が増加

児童生徒の発信する微弱なシグナルを察知できていますか。不登校の背景に様々な要因が隠れているかもしれません。児童生徒の悩みや問題に迅速に対応するために教育相談の充実を図る必要があります。

地区内の不登校児童生徒の状況

	令和元年度	令和2年度	増減
小学校	42人	53人	+11人
中学校	167人	194人	+27人

教育相談の充実

- 児童生徒との信頼関係を構築する。
 - ・ 声かけ・気付き・傾聴を大切にする。
 - ・ 支援と見守りを行う。
- 相談体制を整備する。
 - ・ 生徒指導の考え方についての共通理解を図る。
 - ・ 校内研修等を通して資質向上を図る。
 - ・ 情報を共有する機会を設ける。
- SC (スクールカウンセラー) との連携を図る。
 - ・ 役割を明確化する。
 - ・ 専門性を生かしたアドバイスを受ける。

「未然防止の充実」
「組織的な対応」
「相談体制の充実」
～ 児童生徒への
日頃からの声かけを～



「体力・運動能力の向上」

課題は上体起こしと
中学校女子の体力

令和2年度鹿児島県児童生徒体力・運動能力調査結果
(○：県平均を上回る ▼：県平均を下回る)

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	20mシャトル (点)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
小5男	○	▼	▼	○	▼	○	○	▼
小5女	○	▼	○	▼	○	○	○	○
中2男	▼	▼	○	▼	○	▼	▼	○
中2女	○	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼

本地区の児童生徒の体力を県平均と比較すると、小・中学校全体的に上体起こしが県平均を下回っています。また、中学校女子の体力は全体的に下回っています。

体育学習の充実、運動習慣の改善

- 実態に応じた補強運動を設定し、継続的に取り組みつづける。
- 運動の特性に応じた楽しさを味わわせて、わかる・できる喜びにつなげる。
- 一校一運動等の取組を、家庭につなげる。
- 取組の過程や成果をカードや定期的な測定等でたしかめる。
- ポイントを伝えて本来の体力・運動能力を発揮させる。

キーワードは「つづける」「つなげる」「たしかめる」
もっている力を発揮させるワンポイントアドバイス

「地域・家庭の教育力の向上」

生活習慣の見直し、地域活動への積極的な参加を

令和元年度全国学力・学習状況調査結果

調査項目	校種	地区 (%)	県 (%)
毎日同じくらいの時刻に寝ている。	小	78.7	80.7
	中	79.5	81.1
今すんでいる地域の行事に参加している。	小	62.9	72.7
	中	47.1	54.2

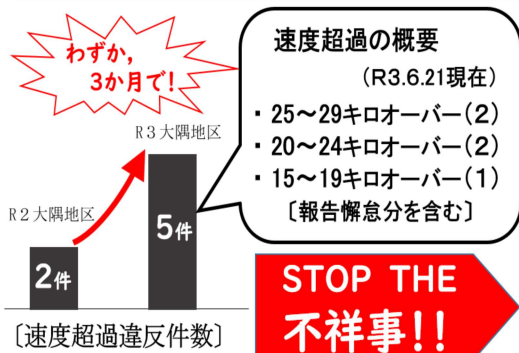
子供たちの就寝時刻や地域行事への参加はどうか。生活習慣の見直しや地域行事への積極的な参加を図り、「帰りたい家庭」「行きたい学校」「住みたい地域」の実現を図ることが大事です。

地域・家庭における取組

- 「早寝早起き朝ごはん運動」及び「守ります！9時オフ。(地区PTAの提言)」を実践する。
- 家庭内ルールづくりや親子読書等に取り組む。
- 青少年育成の日(毎月第3土曜日)を中心とした地域活動(子ども会活動等)に積極的に参加できるようにする。
- 地域の自然や文化を生かし、家庭・学校・地域における体験活動を推進する。

社会全体が家庭教育の自主性を尊重
一体となって家庭教育を支援

交通法規の違反は、教職員としての信用を失う行為です



本地区では、速度超過による違反者が増大しています。本年度は、わずか3か月で、すでに5件。(昨年度は、1年間で2件です。大幅な増加です。)速度超過違反の背景には、「出勤時に漫然と運転していた」「約束した時刻に間に合わせようとしていたら、ついスピードが出ていた」といった気持ちの緩みや焦りがあります。

改めて、**信頼される学校を目指して 強い自覚を!!**